

(別紙)

平成 25 年度地域と連携した子どもの体力向上支援事業 ふりかえりシート

団体名(伊野地区自治協会)【 児 童 】

1. 事業名

遊び&体力伊野バージョン
伊野の自然を舞台に子どもの遊びをつくりだす
—遊びを通して体力・自然認識・危険回避能力を育てる—

2. 主な活動

- (1) 日常的な活動・・・伊野地区体協や伊野コミセン、スポ少、放課後子ども教室などと連携し、日常行っている活動や練習に遊びのプログラムを取り入れる。
- (2) イベント的な活動・・・伊野地区の各種団体と島根大学の学生らが連携を図り、伊野の自然を舞台にした遊びをつくりだす。

3. 成果

- (1) 野山や川、田んぼなど、自然の中で遊ぶ楽しさを体感させることができた。また 刃物を正しく使うことで危険回避能力も養った。
- (2) 遊びは自分たちで作り出すもの、遊具がなければ自分で作るということを学んだ。自然の中にある様々な物が遊具になり、遊びにつながるということを体験させることで子どもたちの創造性を引き出すことができた。
- (3) ふるさとの豊かな自然に気づき、ふるさとを愛し大事にすることを考えさせる機会になった。
- (4) バランスボールやけん玉などの遊具を取り入れることで、子どもの遊びやスポーツを支援する団体の活動内容が豊かになった。
- (5) 保護者や地域の人々の参加が多数あり、子どもの遊びや体力について考える機会になるとともに、地域の活性化にも貢献した。

4. 次年度以降の展望

(今年度の取組の成果や課題を受けて、将来のビジョン、展開の方法など)

- (1) 子どもたちの意見や反省も踏まえながら今年度の活動で継続的に実施することが望ましいものは次年度も行う。見直しが必要なものは新規事業に変更し、活動を続ける。
- (2) イベントについては島大生だけでなく、地域の各種団体と連携を一層充実させる。
- (3) 事業の企画・運営にも子どもたちを参画させ、子どもの意見を反映させることで遊びに変化をもたらし、日々子どもたちが元気に外で駆け回る光景が当たり前になるよう期待する。

5. 県への要望(この1年間で感じたことをこの機会に何でも！)

貸出用品の充実(例：救命道具、はがま、そば打ち用品、キャンプ用品など)

【活動写真】



どろんこフェスティバル
(馬の方が実はツライかも…)



秘密基地づくり
(竹滑り台、どんなもんかな?)



スケート教室
(スケート楽しい～)



昔のあそび体験
(お父さんだって子どもの頃はうまかったんだぞ)



一畑薬師初詣ランニング
(目指せ山頂！俺が一番だ！)



キッズ陸上教室
(バランスボールに挑戦！)